

令和8年度 第2回 地域緩和ケア症例検討会 参加者アンケート結果

日時：令和8年5月13日（水）19：00～

症例発表：鶴岡協立病院

会場：荘内病院 講堂

司会者：阿部 美知子

症例：重症心不全・高血圧症、大動脈弁閉鎖不全症術後・ペースメーカー植え込み後
(89歳 女性)

参加者：33名

(会場：20名、

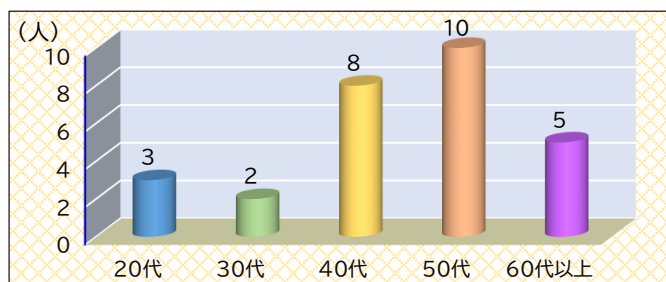
Zoom 13名)

アンケート 28名

Q1. あなたご自身について

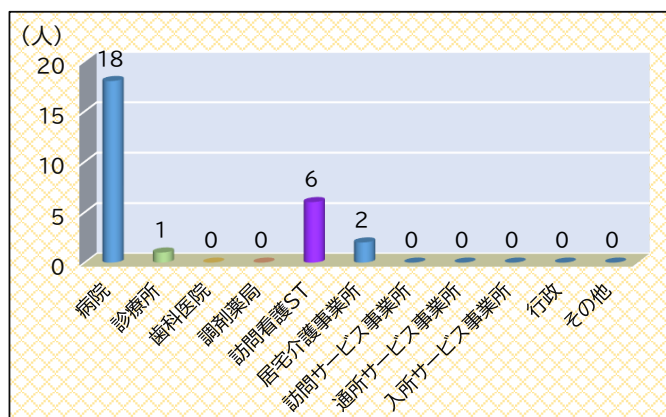
1-1) 年齢

20代	3
30代	2
40代	8
50代	10
60代以上	5
計	28



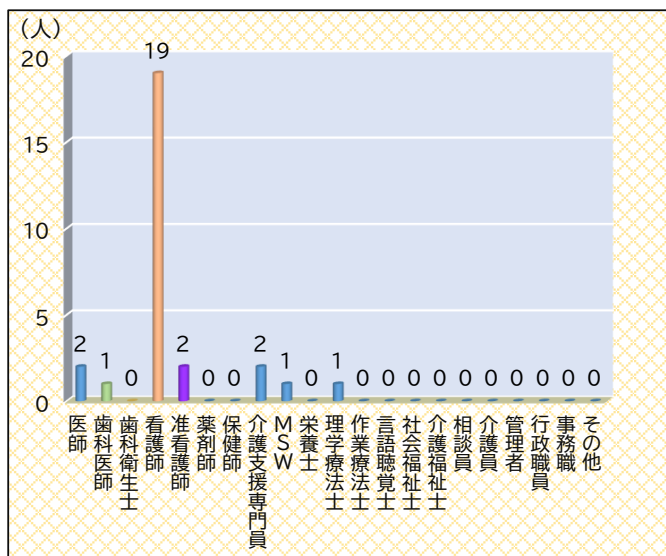
1-2) 勤務先

病院	18
診療所	1
歯科医院	0
調剤薬局	0
訪問看護ST	6
居宅介護事業所	2
訪問サービス事業所	0
通所サービス事業所	0
入所サービス事業所	0
行政	0
その他	0
計	27



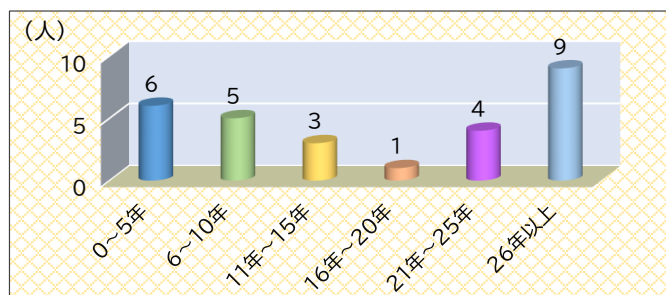
1-3) 職種

医師	2
歯科医師	1
歯科衛生士	0
看護師	19
准看護師	2
薬剤師	0
保健師	0
介護支援専門員	2
MSW	1
栄養士	0
理学療法士	1
作業療法士	0
言語聴覚士	0
社会福祉士	0
介護福祉士	0
相談員	0
介護員	0
管理者	0
行政職員	0
事務職	0
その他	0
計	28



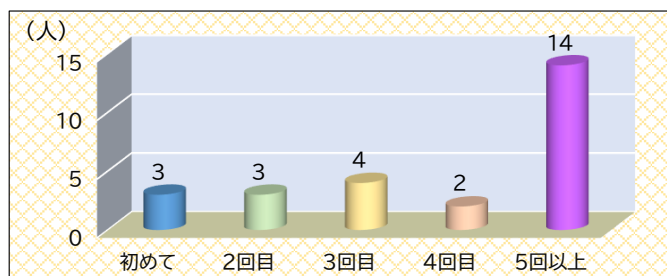
1-4) 現在の職業の経験年数

0～5年	6
6～10年	5
11年～15年	3
16年～20年	1
21年～25年	4
26年以上	9
計	28



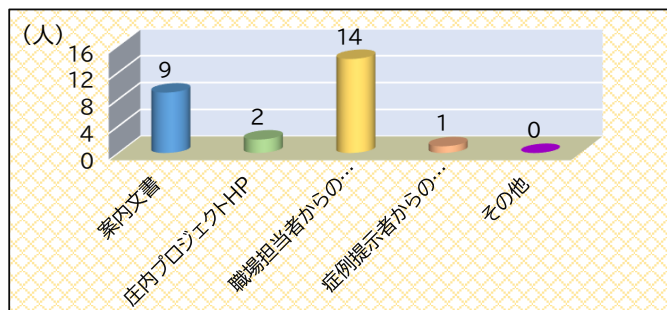
Q2. 症例検討会参加回数

初めて	3
2回目	3
3回目	4
4回目	2
5回以上	14
計	26



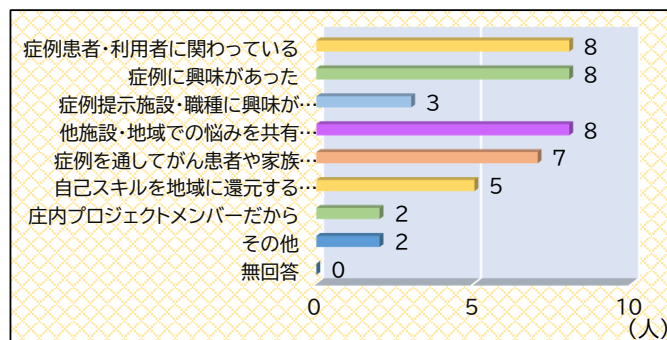
Q3. 症例検討会を何で知ったか（複数回答）

案内文書	9
庄内プロジェクトHP	2
職場担当者からの声かけ	14
症例提示者からの声かけ	1
その他	0
計	26



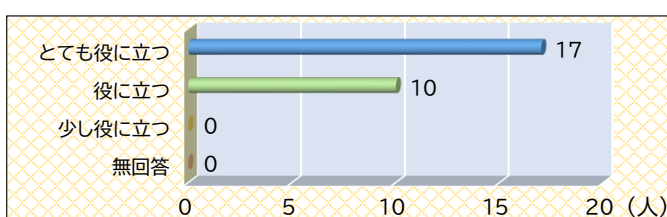
Q4. 参加の動機（複数回答）

症例患者・利用者に関わっている	8
症例に興味があった	8
症例提示施設・職種に興味があった	3
他施設・地域での悩みを共有し、自施設で役立てる	8
症例を通してがん患者や家族の関わりを学ぶ	7
自己スキルを地域に還元するため	5
庄内プロジェクトメンバーだから	2
その他	2
無回答	0
計	43



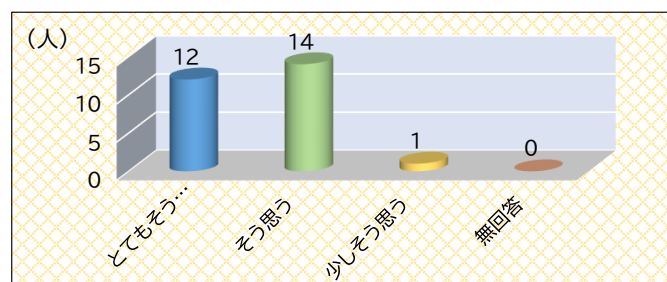
Q5. 症例検討会の役立ち

とても役に立つ	17
役に立つ	10
少し役に立つ	0
無回答	0
計	27



Q6. 次回の参加意欲

とてもそう思う	12
そう思う	14
少しそう思う	1
無回答	0
計	27



Q6. 次回も参加したいと思いますか？の理由

(14件)

- ・ 今日、神谷先生にお話を多く聞けたので役に立ちました。
- ・ 地域の課題に触れられる良い機会と思います。
- ・ 多職種、他地域の意見がきけるため。
- ・ 心不全について、治療について、病院から地域、在宅への継続した医療について学びが深まるため。
- ・ 距離的な理由で在宅支援に限られることが多々あり、今後の参考になると思った。
- ・ 緩和ケアの必要な方を担当したことがないので、事例を学んでおきたい。
- ・ 事例を聞いてこれから役立てそうだった。
- ・ 薬の知識や病院やそれぞれの立場や考えや状況を知ることができるため
- ・ 地域問題やケアの工夫につながるがあるので、今後の学びにつなげたい。
- ・ 実務的には直接ケアをしている立場ではないが、指導する立場として学びを深めたと思う。
- ・ 他のステーションの悩みや、取り組みを知り、自身の看護に活かすことができるから。
- ・ 他職種連携を含め、地域における緩和ケアの在り方について理解を深めることができた。お盆にかかり、退院調整や本人の希望を叶えるにはどうしたら良いか、薬剤コントロールを含め難しい症例でしたがとても有意義でした。
- ・ 学ぶ事が色々あるので。学びを深めるため。今後に活かせるため。
- ・ 当施設以外の症例を聞くことができる唯一の会なので参加したいと思いました。

Q7. 困っている症例

(1件)

- ・ 今後提案できればと思います。(ひばり訪問看護ステーション酒田)

Q8. ご意見・ご質問

(15件)

- ・ 医師が少ない地域でのタイムリーに患者の希望を叶えることが難しいこともあると思います。同じような症例を経験していることを学びました。
- ・ モルヒネとプレセデックスの関係を学べた。訪問看護の地区体制の問題点を知ることができた。
- ・ 在宅のバックアップについて、課題は常にあると思います。その課題について何ができるか地域で考えていければと思います。
- ・ 医学的に出来ること出来ないことに加え、これからも課題になる地域連携についてどう関わっていけるかを考えていきたいです。
- ・ 治療についても話をきくことができ、とても勉強になりました。
- ・ 距離制限がなくなればいい。田舎だから医師も看護師も不足で困難がある。
- ・ 皆さまから意見を多くいただき、これからの看護につなげていきたいと思います。
- ・ やはり自宅看取り、距離や長期休暇はどこも問題なのだった。だからこそ早めの調整が必要だと実感した。
- ・ 今後も多く携わる事例の一つだった。実際に訪看さんの意見や、Drの提案を聞くことが出来たためになった。体制を整えるまでに時間を要する課題を何とか出来ればもっと患者のためになると思った。
- ・ 連休やお盆正月など病院から退院するケースがあり、調整が大変な時もある。退院の日までの日数が短いと調整が大変である。
- ・ 過疎地ではないですが、必要な医療、介護がなかなか届かない地域への対応を早急に進めてほしいと思いました。
- ・ 在宅を望む患者・家族のためには、とても重要なテーマを提出していただきました。オンライン環境について課題が残りました。
- ・ 朝日地区、温海地区の介護サービスの不足により、緩和ケア在宅看取りの退院調整の困難
- ・ 自施設の症例ではありましたが、はじめに通信トラブルもあり全体像が見えなかった。自施設の症例の際はどのような事例を提示するか、把握する必要があると思いました。
- ・ 心不全期の薬剤使用について知識が無かったのでとても勉強になりました。ありがとうございました。

